

PROGRAM NOTE

2018年7月

「B C Lのレジェンド達 東北編」 白石晋一×大森信夫



大森信夫・秋葉浩之・白石晋一の各氏

白石：私がB C Lを始めたのは中学生の頃です。父が仕事先から真空管式のラジオを作ってもらい、それを聴いたのが始まりだったと思います。最初の海外放送のベリカードはフィリピンのF E B Cで、中学生の時英語放送を聴いて英語でレポートを書いたものです。日本短波クラブにはその頃入会しました。無線雑誌の記事を見てクラブの存在を知り入会したと記憶しています。今日、当時収集したベリカードを持参しました。どれも印象に残っているのですが、しいて挙げるならH C J Bです。南米から電波が届いたことに感激したことを今でも覚えています。

大森：当時は真空管式ラジオを自分で組み立てて聴いていました。短波帯は6メガから18メガがメインだったので、15メガなどが聴ける2バンドのラジオはかっこよかったです。

白石：あの頃は短波が良く聴こえましたね。何しろノイズがなかった。当時家にあった電気製品は唯一電熱器くらいで、冷蔵庫、テレビ等ノイズ源は何もなかったです。氷屋が繁盛していましたからね。

大森：国連放送は、日本が国連に加盟してから日本語放送が始まりました。当時の国連放送は他の放送局の送信設備から送信していました。白石さんが持参したベリカードにはアメリカK C B Rから送信した旨記載されていますね。また、当時は仙台市川内に進駐軍の基地があり、F E N仙台がそこから放送していました。ただ、中継局だったようで仙台独自の番組はなかったかもしれません。基地は返還後東北大學となりました。ですから、大学の校舎はカマボコ兵舎、大教室は元教会でした。

白石：日本短波クラブの運営では、山田耕嗣さんがよく仙台に来てくれたことが思い出されます。当時あった常磐線ディーゼル特急「はつかり」で仙台に来られることが多かったです。

大森：山田さんは自分で確かめたことしか記事にしませんでした。その点は非常に徹底されており、感服したものです。

白石：会誌の印刷では第一印刷の伊藤さんが協力してくれました。発送のための場所も貸してくれて、そこで発送作業を行ったものです。

大森：宛名書きは当初手書きで行い、その後ガリ版刷りの宛名カードを使うようになりましたが、退会者等に発送しないよう、会費の納入状況も確認しなければならなかったです。また、一日でも早く会誌を届けるため、郵便列車のポストに直接投函することもありました。当時多かった海外会員には記念切手を貼って発送したものです。

白石：最近は日本語放送を中心に聴いていますがノイズが多いので熱が入りません。普段の生活ではノイズ源を減らすことは不可能なので、ノイズのない所に行くしかないでしょう。三陸沿岸は短波の受信状態がいいので、お勧めです。

大森：やはりノイズが多いので今はあまり聴いていません。一番聴いたのは1957～58年頃です。当時は横浜在住で、今では考えられませんが電話線を借用してロングワイヤアンテナ代りとしていました。短波放送は古い技術ですが、古いものはそれなりの強さを持っていると思います。通信インフラも、二重三重に保証をかけるようなしきみづくりが必要だと思います。

白石：今はスマート全盛期ですが、スマホで情報が見られなくなったらどうなるか心配です。便利なものはどんどん利用すべきですが、一方で、考える機会が減っているのも事実です。

大森：今は考えなくともスマホですぐ答えが見つかる世の中ですが、答えが一つだけになってしまう恐れもあります。

白石：電波は古い技術で、日によって感度が違ったり雑音やフェーディングがあったりしますが、それらにアナログゆえの温かみを感じます。これからも短波放送を聴き続けていきましょう。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
6月02日	日本短波界のレジェンドたち 和田謙郎さん（2）	6月03日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ
6月09日	日本短波界のレジェンドたち 和田謙郎さん（3）	6月10日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ
6月16日	日本短波界のレジェンドたち 白石晋一&大森信夫（1）	6月17日	リスナーからの手紙「お便り交換の時間」
6月23日	日本短波界のレジェンドたち 白石晋一&大森信夫（2）	6月24日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ
6月30日	滝沢ちやぐちやぐホールにて 早坂啓司&植村憲一	7月01日	Reach Beyond は今 (Dale Stagg CEO)

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15410kHz (再放送) 午後8時～8時30分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

